

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃ わかこま		団体ウェブサイトURL	
	有限会社若駒		http://www.wakakoma.co.jp	
代表者職・氏名	代表取締役 小池真沙子			
制作団体所在地	〒	534-0021	最寄り駅(バス停)	大阪メトロ谷町線「都島」駅
	大阪市都島区都島本通2-4-9			
電話番号	06-6926-1244			
ふりがな 公演団体名	みんぞくげいのう わかこま		団体ウェブサイトURL	
	民族芸能アンサンブル若駒		http://www.wakakoma.co.jp	
代表者職・氏名	代表 藤原正憲			
公演団体所在地	〒	534-0021	最寄り駅(バス停)	大阪メトロ谷町線「都島」駅
	大阪市都島区都島本通2-4-9			
制作団体 設立年月	1989年9月			
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役 小池真沙子 取締役 藤原宏行 取締役 吉田亜貴子		〈構成員〉団員4名契約社員演技部4名制作部2名 〈加入条件〉演技部:1年の見習い期間を経て 入団試験の実技と面接を受ける。 制作部:運営委員会の推薦・承認	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者 を置く	本事業担当者名		藤原正憲
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名		櫻田舟完・飯伏泰久
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	geinou@wakakoma.co.jp			

<p>制作団体沿革</p>	<p>【有限会社 若駒】 1969. 5. 1 大阪市城東区において設立、大阪歌舞団若駒と称す 1971. 全国児童・青少年演劇協議会 加盟 小、中、高、学校での公演活動を始め。 1982. 6 民族芸能アンサンブル若駒 と改称 1989. 9 有限会社 若駒 と法人格を有す 1997. 7 日本児童・青少年演劇劇団協同組合 加盟</p>			
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>近畿地方の保育園・幼稚園・小学校・中学校を中心に、全国のおやこ劇場、子ども劇場などで、年間100ステージ以上上演。 若駒は、1969年結成以来7000ステージを超える公演と、約100万人の子ども達に民族芸能、児童劇の公演を届けています。 (直近) 令和2年度「でべそ版ずっこけ狂言」町田こども劇場、豊橋おやこ劇場協議会、ぎふサンSUN子ども劇場協議会 令和3年度「でべそ版ずっこけ狂言」富山子ども劇場、彦根おやこ劇場、特定非営利活動法人さぬキッズコムシアター、NPO法人横浜こどものひろば、亀山こども劇場、NPO法人こども未来ネットワーク 令和4年度「でべそ版ずっこけ狂言」負けない忘れない3,11びっくり箱part11、七尾子ども劇場、貝塚ファミリー劇場 令和5年度、堺市立東百舌鳥小学校、明石おやこ劇場、八日市市立八日市西小学校、堺市立市小学校、豊中池田おやこ劇場、浜松子ども劇場</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>この作品を本事業以外で特別支援学校にて上演した実績はございませんが、日本の伝統芸能を構成した作品は、近畿地方の特別支援学校にて上演しております。また、小学校公演での支援学級の児童の皆さん、一般公演では障がい者の方にも多数ご覧頂いております。 近畿地方の支援学校・特別支援学校にはダイレクトメールにて「芸術鑑賞会」のご案内もしており、上演実施にむけて取り組んでいます。</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/U8erfLrTWZw</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 民族芸能アンサンブル若駒】

対象	小学生(低学年)	○			
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生	-			
企画名	でべそ版ずっこけ狂言ぼんさん・ぼんさんギンナンパー				
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>【プログラム構成】</p> <p>1, テーマソング演奏 2, 「ぼんさん」上演 3, 「いろは」上演 4, 「みんなで体験狂言ワークショップ」児童と一緒に体験する 5, 「くさびら」上演 原作: 狂言「盆山」「伊呂波」「菌」 脚本・演出: 松本則子</p> <p style="text-align: right;">公演時間 80 分</p>				
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし		該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済	
演目概要	<p>伝統芸能狂言を原作としたこの作品は、翻案・演出をする事で、伝統の笑いと現代の笑いがコラボレーションし、初めて狂言にふれる小学生にとっても狂言の魅力が伝わりやすい内容になりました。</p> <p>また狂言の世界を損なわないよう出演者は狂言の所作を用いて演じます。演じる側と観る側、互いの想像力で舞台空間をうめていきますので、無限に想像の世界が広がり想像力が掻き立てられます。</p> <p>・「ぼんさん」盆山好きの男が、名人の屋敷に盆山をいただきに入りますが、名人に見つかり、さんざんにからかわれます。盆山好きの男が名人の屋敷に入ろうと工夫するところを、狂言の所作とパントマイムの一人芝居で演じ、見えないものが見えて観客の想像力を掻き立てます。</p> <p>・「いろは」いろは48文字を子に教えようとする親。口真似をして覚えるよう子に言いつけますが、なかなか上手く行きません。とうとう・・・誰もが経験するもどかしさ、普遍的な笑いが児童の皆さんにも伝わります。</p> <p>・「みんなで体験狂言ワークショップ」その場で全員立ち上がり、狂言の基本姿勢、所作を盛り込んだ狂言体操から始まり、役者が行う狂言の所作をまねる「口真似」ならぬ「所作真似」を行う。ワークショップを体験する事で、狂言という伝統の様式と作品への理解と興味がさらに深まります。</p> <p>・「くさびら」くさびらはキノコのことで。座敷にくさびらが生えて困り果てた狸は、法印様にご祈禱を頼みますが・・・増え続けるくさびらを、役者、ぬいぐるみ、キノコ電車、垂れ幕などで表現し、観客にもくさびらとして出演していただきます。子供たちは自分で作ったキノコ帽子を膝の上に置いて出演するシーンが来るのをワクワクしながら待っています。</p> <p>・円形舞台を取り囲んで観る空間は、とても楽しく対面に座った人の表情、また鑑賞している様子も見ることが出来るので、低学年、高学年ともに独特な舞台空間の使い方などを理解し、鑑賞力、観る力が高められます。「別添パンフレット」</p>				
演目選択理由	<p>伝統芸能狂言は「難しい」というイメージが強く、なかなかふれる機会が少ないのが現状です。その狂言に翻案と演出を施し、円形舞台で演じられるこの作品は、その実績と完成度においてもすぐれた作品であり、質の高い文化芸術の鑑賞作品として適しています。</p> <p>作品の魅力と共に役者の個性も発揮され、笑いと共にその技法も楽しめます。高学年の教科書にも登場する狂言を、このような形態で鑑賞する事で、狂言に対する興味と理解が高まります。</p> <p>人間は賢さも愚かさもみな同じように持っています。そのことを理解していれば、誰もみなゆつたりと広い心をもっていたわり合いながら仲良く楽しく生きていけるという事を、この作品をとおして児童の皆さんに伝えたいと思います。</p>				
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>児童の皆さんは、「みんなで体験狂言ワークショップ」の中で、狂言の所作を取り入れた狂言体操と狂言の所作を真似する「所作真似」を体験します。</p> <p>また、児童の皆さんは、「くさびら」の中で芝居に参加します。事前のワークショップで、狂言の基本を体験し、後日クラフト紙でキノコの帽子を作ってください。ワークショップに参加できなかった児童のためには、ワークショップ当日お渡ししたDVDを見てキノコ帽子を作り、動き方などを稽古していただき、本公演では、「くさびら」のお話の中で、キノコが増え続ける時に、役者のセリフの合図で自分で作ったキノコの帽子をかぶり、キノコの動きをし、代表の児童が登場人物の狸と(あっちむいてほいで)戦います。そして法印の祈禱によりキノコは敗れ、児童の皆さんは帽子を脱いでキノコの動きを止めるという一場面を、役者と共演します。</p>				
出演者	<p>桜田舟完: 1969年創立に参加 京舞井上流、横笛藤倉流、薩摩琵琶錦心流名取。平成19年度全児演賞受賞 藤原正憲: 1984年入団 第8回津軽三味線全国大会in神戸にて文部科学大臣賞受賞 藤堂真沙子: 1997年入団 京舞井上流名取り 琴生田流筑紫会師範 平成13年度なにか芸術祭新人奨励賞受賞 菅田創観: 1998年入団 京舞井上流名取り、長唄今藤流名取り 平成17年度なにか芸術祭新人奨励賞受賞</p>				

本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	出演者: 4 名 スタッフ: 1 名 合 計: 5 名	運搬	積載量: 1 t 車 長: 5,38 m 台 数: 1 台
--	-----------------------------------	----	-------------------------------------

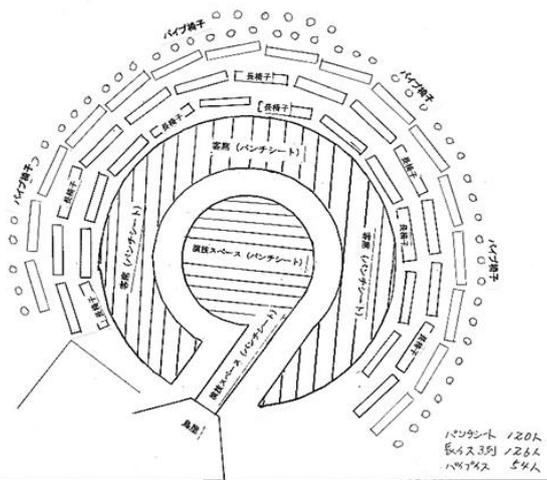
本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～10時	10時40分～12時	0	13時～14時30分	15時
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。					

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	10日				10日	
	11月	12月	1月	計	35日	
	10日	5日				
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	最高300名(客席でキノコになる児童)
		鑑賞人数目安	300名

でべそ版ずっこけ狂言「ほんさん・ほんさんギンナンパー」

仕込み図



(図1)
会場仕込み図
会場設営に必要な広さ
約17m×17m

舞台

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)



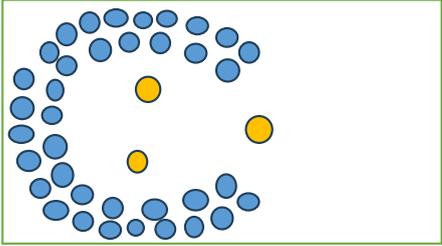
(図2)
終演時の舞台

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



(図3)
「くさびら」上演の様子

【公演団体名 民族芸能アンサンブル若駒】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	300人まで
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>標準:90分 3人の指導者が学校に直接指導に行きます。 1、挨拶自己紹介をして、本公演で上演するでべそ版ずっこけ狂言ぼんさん・ぼんさんギンナンパーについて簡単に説明します。 2、作品のもとになっている、狂言について、650年前にできた面白いお芝居であること、等説明します。 3、説明だけでなく作品のもとになっている狂言を、クイズを行いながら分かりやすく紹介します。足袋はなぜ黄色いのか、動物の鳴き声を狂言の型で行い動物名を尋ねる等。 4、短いずっこけ狂言、学校所在地の名産品や学校名を盛り込んだ(ご当地狂言)の実演を行います。 5、対象となる学年の児童に、狂言の基本姿勢、歩き方等を指導します。その際、太郎冠者や大名など、役柄の特徴が出ている児童を選んで、舞台上で発表していただきます。 また、指導者と児童のどちらが早く基本姿勢ができるか、指導者の合図で比べてみたりして児童との交流をはかります。 6、その後、本公演作品の中の「くさびら」に出演するため、キノコの動き方(えのき、しめじ、舞茸の3種類の動き)を覚えていただき、それぞれ三つのキノコのグループに分かれて、キノコ帽子をかぶるタイミング、それぞれのキノコの動きを始めるタイミングを練習します。 そして、キャストの狸との戦い方(あっちむいてほい)の練習をします。 最後に出演シーンを最初から通して本公演に向けて本番通りに行います。 ※キノコ帽子は、作り方の動画のDVDと材料のクラフト用紙を当日持参し、ワークショップが終わって後日、本公演までに、先生と一緒に作って当日それぞれ会場へ持って来ていただきます。ワークショップで膨らんだキノコのイメージを、それぞれの児童の個性あふれるキノコ帽子として出来上がるよう、あえてワークショップ後に作っていただきます。 7、事後に児童、先生方と役者が、感想を話したり、質問に答えたりします。</p>		
<p>ワークショップのねらい</p>	<p>事前にワークショップをする事で、本公演作品また、そのもとになっている狂言への興味がわき、演じること、表現することの難しさを知ると同時に、表現することの楽しさを体験出来ます。さらに狂言に対する理解が深まるよう、児童の皆さんが抱く興味や発見、関心を大切に、能動的な学びの創出を目指します。そして、本公演ではワークショップで学習した「くさびら」の一場面に出演する事で、本公演への興味と意欲が高まる事を目指し、出演することで達成感が得られるようにします。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>図4 ワークショップの形態 ● 児童 ● 指導者</p>  <p>ワークショップ学習コンテンツ</p> <p>キノコ帽子の作り方動画 https://youtu.be/Y1FS-Uf3CIA</p> <p>キノコの動き方、戦い方 https://youtu.be/hUpkk__oKug</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名 民族芸能アンサンブル若駒】

①本事業に対する取り組み姿勢

若駒は1969年の結成以来、我流や自己満足でない品格のある質の高い舞台芸術の創造に力を尽くすという思いでこれまで活動してまいりました。

日本舞踊・三味線・狂言・小鼓・しの笛・琵琶・お琴・民謡など伝統芸能の各師に、また民俗芸能は各地の保存会の方に、その技術、心を学んでいます。その中で出会った狂言のシンプルな舞台空間、余分なものをそぎ落とした凝縮された表現スタイル、ユーモアにあふれる笑い、そして無限に広がる想像の世界が私たちの心を惹きつけました。

子ども達に狂言の魅力、面白さを伝えたい。しかし、古典芸能をそのまま演じるのではなく、私たちがだからこそ伝えられる表現方法を試行錯誤し、舞台を円形にし、翻案・演出を施して新しく再創造したのが狂言です。

その為、「能楽」ではなくあえて「児童演劇」のジャンルで提出しています。

伝統の笑い現代の笑いが絶妙なバランスで融合したこの作品は、今を生きる子ども達にとって、親しみやすく身近なものとして感じられ、日本の伝統文化に興味をもち、理解を深めることになるでしょう。

学校生活、日常生活の中でなかなかふれる事の少ないジャンルだからこそ「より質の高い舞台芸術に出会う大切な機会」と捉えております。

本事業は、その事と共に、「児童が参加する」という新たな要素を加えた、特別な体験の出来る取り組みとして位置づけ、文化庁が主催する尊い取り組みだと考えています。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

当日には上演作品の中で、全校の児童で短いワークショップを行います。事前ワークショップで体験した事を、実際に舞台鑑賞し、その場でもう一度体験する事で、また新たな気づきや発見があり、狂言をより身近なものとして感じる事が出来ます。

全体のワークショップの後、「くさびら」の中で事前のワークショップに参加した児童、また参加できなかった児童もキノコとして出演します。

ワークショップに参加出来なかった児童は、ワークショップ当日にお渡しするDVDを見て、事前学習をしていただき本公演に臨んでいただきます。

その際児童は自分で作ったキノコの帽子をかぶり、キノコの動きをします。

事前ワークショップで得た経験、技術を存分に発揮できるよう、また一度きりの挑戦が貴重な実りある経験となるよう出演者、舞台監督がサポートします。

※事前ワークショップの際には、指導者の見本演技等の撮影を許可し、本公演までの練習の材料としていただきます。

キノコ帽子の作り方キノコの動き方は動画のDVDと材料を、ワークショップ当日渡し、後日先生の指導の下作っていただき、キノコの動き方の復習も兼ねてDVDを鑑賞していただきます。

